

給食の放射性物質検出検査についての要望書

豊島区長 高野 之夫 殿

2011年11月14日

としま放射能から子どもを守る会

代表世話人 伊藤恵美子（豊島区千早）

このたびは、子どもたちの健康の基礎となる給食の安全確保のため、放射性物質検査を実施していただき、ありがとうございます。

日本政府が参考としている ICRP（国際放射線防護協会）の発表資料では、現在の日本の暫定規制値をはるかに下回る 10 ベクレルのセシウムでも、毎日摂取しつづければ、健康被害が報告されているレベルの体内蓄積量に至る危険性を指摘しています。（※）

そんな中、日本各地で実施されている公的機関による検査で、最近も、食品から放射性セシウムの検出が続いています（以下一覧参照）。中には、出荷された後に流通先の検査で発見された例もあり、産地による検査がしきれず、汚染された食品が市場に出回っている実態が明らかです。横浜市では給食のシイタケからセシウムが検出されたこと受け、市が調査した結果、給食食材の加工業者による産地偽装も明らかになりました。

豊島区の子どもから、放射性物質の内部被曝による癌、白血病、心臓疾患、精神疾患などの健康被害を出さないために、以下 1) ～ 3) を要望いたします。

（※）ICRP PUBLICATION 111. Application of the Commission's Recommendations to the Protection of People Living in Long-term Contaminated Areas after a Nuclear Accident or a Radiation Emergency

*乾燥シイタケ（静岡・伊豆産）	<u>1 0 3 3 Bq/Kg</u>	（10月7日）
*原木シイタケ（茨城・鉾田産）	<u>9 9 0 Bq/Kg</u>	（10月5日）
*原木シイタケ（茨城・行方市産）	<u>8 3 0 Bq/Kg</u>	（10月13日）
*乾燥シイタケ（給食 産地不明）	<u>3 5 0 Bq/Kg</u>	（10月13日）
*製茶（東京都・あきるの市、武蔵村山、瑞穂町）	<u>5 5 0～6 9 0 Bq/Kg</u>	（9月23日）
*栗（茨城県・霞ヶ浦 流通）	<u>1 2 1 Bq/Kg</u>	（9月27日）
*ぶどう（福島県・伊達市 流通）	<u>4 0 Bq/kg</u>	（9月27日）
*スジエビ・テナガエビ（千葉県・成田市）	<u>5 8. 9 Bq/kg</u>	（9月27日）
*牛肉（山形県・尾花沢市）	<u>4 3 Bq/kg</u>	（9月23日）

- 1) 現在、実施している給食のサンプル検査の対象を全校・園に拡大し、来年度にも引き続き実施してください。
- 2) 給食サンプル検査を、ゲルマニウム半導体検査機器本来の検出限值まで、丁寧に実施していただいていることに感謝いたします。その結果を、定量下限値 20 ベクレルまでではなく、検出限界値まで発表してください。検査を実施している他区でも、定量下限値以下を「参考値」等として公開しています（新宿、渋谷、千代田、東村山など多数）。
- 3) 産地、流通における検査体制が不十分な本年においては、宮崎産米給食の実施を見送ってください。

以上